広島大学 共創科学基盤センター

Newsletter

ELSI/RRI for Science

No.1 · 2026.11

発刊のご挨拶

このたび、広島大学共創科学基盤センター（ELSI Hiroshima）のニュースレターを創刊しました。センターの日々の活動やELSI/RRIをめぐる最新の動き、研究者の研究成果などを、分かりやすくお届けします。

このニュースレターが、ELSI Hiroshimaをより身近に感じていただくきっかけとなり、新たな対話や共創につながる一助となれば幸いです。

ぜひ、ELSI Hiroshimaの「いま」をのぞいてみてください！

01 施設の整備

ELSI Hiroshimaの拠点となる施設の整備が完了しました。

2026年1月、共用棟3（旧歯科診療所）の改修を終え、2026年4月からセンターの活動拠点となりました。アカデミック地区北側、フェニックスタワーの前に位置しています。

研究支援やELSI/RRIコンサルテーション、セミナーなど、さまざまな活動を行っています。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。



地図：広島大学 共創科学基盤センター

02 会議室の学内開放

センター会議室を学内に開放しました。

2026年7月1日より、センター施設内の会議室を学内の教職員にご利用いただけるようになりました。

オンライン会議や少人数でのセミナー、ディスカッション、共同作業などにご利用いただけます。



会議室の利用について

研究のまど 研究の今を、もっと身近に

生まれてくる命のゲノム編集について、社会はどう考えるか



さわい つとむ
澤井 努

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授
共創科学基盤センター 社会共創基盤ユニット長

researchmap

キーワード ゲノム編集、生殖医療、国際協調

生まれてくる子どもの遺伝情報を書き換え、病気を防ぐ。その変化が、さらに子や孫へと受け継がれるとしたら、私たちは何を考えるべきでしょうか。私は、生命科学の進歩が社会に投げかけるこうした問いを研究しています。今回、医学誌 *Nature Medicine* に、日本の新しい法律を手がかりに、ゲノム編集のルールと課題を論じる記事を発表しました。

日本では2026年7月、ゲノム編集したヒト胚などを用いた生殖を、罰則付きで禁止する法律が成立しました。これまで指針で禁じていた行為に、法的な歯止めをかける大きな一歩です。一方、一定の条件の下で行う基礎研究や、患者本人の治療を目的とし、変化が子孫に受け継がれないゲノム編集には、引き続き道が開かれています。

しかし、国内の法律だけでは解決できない問題があります。規制の緩い国へ渡って技術を利用すれば、禁止をすり抜けられるおそれがあるのです。未来の世代に影響する技術を、一つの国だけで管理することには限界があります。

安全性が高まれば、利用してもよいのでしょうか。生まれてくる本人は同意できず、病気の予防をめざす選択が、特定の特徴をもつ人の命を低く見る価値観につながる懸念もあります。科学の進歩とともに、こうした問いを社会で考え続ける必要があります。

法律の成立は、その出発点です。研究者や医療者、当事者、市民が対話を重ね、国境を越えて協力する仕組みを育てる。未来の世代に関わる選択を、今を生きる私たちがどう引き受けるのか。その問いを、これからも社会とともに考えていきたいと思います。

紹介論文

Tsutomu Sawai. “A binding ban, and its limits: Japan legislates on heritable human genome editing.” *Nature Medicine* (Correspondence). nature.com/articles/s41591-026-04641-x

お問い合わせ

広島大学 共創科学基盤センター（ELSI Hiroshima）
〒739-0046 広島県東広島市鏡山1丁目1-2

Mail huccs@office.hiroshima-u.ac.jp Web huccs.hiroshima-u.ac.jp Tel 082-424-6807

J-PEAKS

共創科学基盤センターは、広島大学のJ-PEAKS事業においても各拠点と共に活動しています。